



目次

1. はじめに
2. 高齢者の課題
3. 高齢者のニーズ
4. 熊本の移住定住の取り組み
5. 高齢者の移住定住に関するSWOT分析
6. 高齢者の移住定住に関するクロス分析
7. オレンチkumamotoのコンセプト
8. 地域での生活と雇用
9. 3者のwin win win
10. インセンティブ政策
11. 経済波及効果
12. 今後の課題

1. はじめに

- 移住定住は、ファミリー層や子育ての終わった方たちをターゲット。
- リモートワークの広がりにより、移住希望者が増大。
- 受け皿も人口流出で過疎化し、移住定住の魅力が乏しくなっている

- 
- 高齢者が抱える問題として、定年した後も働きたい気持ち（生きがい、経済面の不安の解消、健康面、孤独感の解消）がある。
 - 移住定住させた高齢者が中心となった町づくりを提案する。

高齢者の移住をターゲットとした
オレンチ (old age)kumamotoを提案

2. 高齢者の課題

- 定年後、地域社会とのつながりがなくなる。
- 70歳以上の働きたい高齢者は39%
- 働く活力はあるものの、環境が整備されていない。
- 平均寿命と健康寿命の乖離。
- 老後の金銭面の不安。
- 在宅での自立した生活（緊急通報装置、安否確認システム）

社会への貢献、金銭、健康面から、
高齢者はまだ働きたい

3. 高齢者のニーズ（万楽寺でのヒアリング）



4. 熊本の移住定住の取り組み

移住促進ツアー 「くまもと大内覧会」	● 熊本に移住する可能性がある300人を募集してツアーを実施 ● 大部分の旅費を熊本市が負担 ● 地場産業120社との面談会を開き、就職支援も行う
オンラインインターンシップ	● 県外大学生向けに実施 ● IT企業の存在や自然の魅力を県外に伝える ● Uターン志望者の呼び込み
熊本移住支援金	● 移住直前の10年間のうち、通年5年以上かつ直近1年以上、東京23区内に在住または東京圏から東京23区内に通勤していた人が対象 ● 2人以上の世帯にあたっては100万円、単身の場合にあたっては60万円

移住定住のターゲットは、ファミリー層、若者向けが多いが、現実 is 厳しい。

5. 高齢者の移住定住に関するSWOT分析

内部環境（高齢者）	外部環境（移住定住）
強み(Strength) ● 老後も働きたい。 ● 健康意識が高い。 ● 社会とのつながりが欲しい。 ● 自立した生活がしたい。 ● 生活の質を向上させたい。 ● 地域活動に参加したい。 ● 文化の継承に積極的。	機会 (Opportunity) ● 空き家の活用によって地域の活性化につながる ● 高齢者向けのサービスが整えられ始めている ● 同じ境遇の仲間が集まりやすい ● 家族の訪問などの新たな経済効果 ● 各地域の文化交流も可能 ● 新しい人間関係や挑戦など、新たな生活スタイルを手に入れることができる ● 地域との関わりを通じてやりがいや生きがいを感じることができる
弱み(Weakness) ● 経済面に不安がある ● 健康面に不安がある。 ● 社会とのつながりがなくなり、孤独感が生じる場合もある。 ● 孤独死などの心配。 ● 車の運転ができないと生活しづらい。 ● デジタルデバイスが発生している。	脅威(Threat) ● 医療機関や交通機関が近くにない ● 移住を受け入れる整備が不十分。 ● 災害時に支援体制が不十分な可能性が考えられる ● 介護が必要になれば家族にも負担がかかり、高齢者に割くリソースが増える。 ● 方言や文化の違いで孤独感や疎外感を感じるかもしれない

6. 高齢者の移住定住に関するクロス分析

強み × 機会	● 新しい人間関係や挑戦などで新たな生活スタイルを手に入れ、第2の人生を始めることができる ● 新しい人間関係や挑戦などで生活の質の向上により、やりがいや生きがいを感じることができる ● 移住の増加による新たなイベントでの経済効果	高齢者の移住は成立する
弱み × 機会	● 方言や文化の違いで孤独感や疎外感を感じるかもしれないが、同じ境遇の仲間も見つかりやすい ● SNSによる地域の広報が難しいが、近年高齢者向けのサービスが整えられ始めていたり、移住定住の情報収集がしやすく始めやすい	
強み × 脅威	● 医療機関や交通機関が近くにないが、家族の訪問などの経済効果により新たな機会を生み出すことができる ● 地域コミュニティの活性化による孤独感の軽減	
弱み × 脅威	● 移動手段が限られているが、医療機関や交通機関が近づくアクセスが悪い ● 移住を受け入れる整備をしないと、方言や文化の違いで孤独感や疎外感を感じるかもしれない。	

7. オレンジkumamotoのコンセプト

- 1) 高齢者が中心となったコンパクトシティ作り
- 2) 空き家の民泊活用による、負の遺産から地域資源へ還元
- 3) 定年後の安定した労働環境の整備（民泊や農家等による雇用）
- 4) 地域のコミュニティ参加による社会とのつながり
- 5) 勤労による健康促進

高齢者の活用が地域活性化のカギ 

8. 地域での生活と雇用

- 住まいは空き家を利用！
- 空き家を利用した民泊を軸として安定した働き口の提供（農業、老人ホームの管理、居酒屋、駄菓子屋、移動販売、地産地消、温泉事業）
- 高齢者が集まることによる町おこし
- 様々な地域文化の交流による新たなつながり

地域で働きつつ老後の生活を充実させる

9. 3者のwin win win

地域にとってのwin	移住者にとってのwin	残された家族にとってのwin
- 定住による人口維持、地域の担い手確保で人口減少対策 - 地元産業や観光・農業・空き家活用による民泊による経済効果 - 地域行事や自治活動への参加、地域コミュニティの向上による地域活性化	- 自然環境・安心感・ゆとりある暮らしによる生活の質の向上 - 農作物や地域活動を通じた健康維持、医療機関とのつながりによる健康・福祉面の安心 - 新しい人間関係や趣味、地域貢献によるやりがいの取得・生きがい	- 親世代が地域で支えあえる環境に暮らしている安心感 - 帰省や訪問のきっかけが増え、世代間交流が深まり関係強化につながる - 介護や生活支援が地域の中で補われるため、遠方に住む子世代の負担軽減になる

10. インセンティブ政策

高齢者の**住み続けたい**なる**動機づくり**・**生活の質の向上**・**地域活性化**

特典内容	備考
熊本城観光チケット（初回）	地元観光から地元の歴史に触れる機会の提供
シニアバス100円制度（毎年）	移動のしやすさで日常の利便性が上がる
温泉宿泊チケット（3年目）	熊本だけでなく他県との交流
地域産品の贈呈（年単位）	地域のPRの協力（人吉・球磨焼酎の贈呈）

高齢者が「住み続けたい」
＝**地域の未来をつくる**

熊本や九州圏内の
観光への誘導可能

11. 経済波及効果

経済波及効果のメインはVFR（Visiting Friends and Relatives）。

※VFRとは友人や家族を訪問することを目的として訪れること。家族や親せきの訪問が、民泊の利用、その土地での生活を楽しめる。

移住者の家族が旅行に訪れる生活体験により、

最終的に移住定住のターゲットをファミリー層へ

- 地元産業の活性化
- 地域の人の流れや活気
- 人口維持
- 地域ブランド形成
- 社会参加

12. 今後の課題

- 高齢者向けの周知方法（回覧板、新聞、テレビ等）
- 移住・定住者の住環境の整備
- 新しい職業への就業支援（民泊、農業等の技術支援）
- 民泊整備の支援（周辺生活インフラ含む）
- 高齢者の継続的な確保が必要（成功体験の周知）
- 医療機関との連携
- 老人ホームの整備（働けなくなった時に利用）

高齢者の自立が、社会貢献につながる

参考文献

- 総務省統計局、「統計からみた我が国の高齢者」、URL:<https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics142.pdf>（最終閲覧日：2025年7月29日）。
- 熊本県、「移住促進ツアー『くまもと大内覧会』」、URL:<https://kumamoto.jp/information/dainairankai01/>（最終閲覧日：2025年7月29日）。
- 熊本県、「熊本移住支援金」、URL:<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/21/50449.html>（最終閲覧日：2025年7月29日）。
- 熊本市、「熊本市と学生をつなぐオンラインインターンシップ」、URL:https://kumamoto.jp/information/r4pref-kumamoto1015_internshipfair/（最終閲覧日：2025年7月29日）。
- 日経新聞、「70歳以降働く」最多39% 郵送世論調査 将来不安「経済」7割、「健康」上回る学び直し意欲高まらず URL:<https://t21-nikkei-co-jp.kumagaku.idm.oclc.org/g3/CMNDF11.do>（最終閲覧日：2025年7月29日）。

ご清聴ありがとうございました